

二月十三日

十一、十二日連続で修士論文修士計画の発表審査会。石山研の安藤由紀子の修士設計が早稲田建築大賞を受賞。佐藤瑠美子が奨励賞を受賞した。今朝は八時半リーガロイヤルホテルで西谷先生と待ち合わせ及び少しの打ち合わせ。九時半理事会にてプレゼンテーション。昼過ぎ理工学部へ。二時博士論文審査分科会。十六時内閣府来室。大津文化庁の海外留学制度に合格。一年間メキシコ行決定。博士課程陸海来室。Dr論文テーマを中国の開発移民の問題に絞ることを決定。この問題は中国内の難民の問題でもあるので私も興味がある。勉強しよう。陸海もようやく本来の問題に辿り着いたようだ。

二月十五日

昨日は夕方経営システム学科の先生方と会談。理工学部再編の件。二〇時豊で難波和彦と飲む。だんだん話せる人が少なくなってきたが、それも自然な成行だろう。

今日は午後三時半よりアフガニスタンのカプールから二人の女性が世田谷村に來た。ホメイリア・ノマーニさんとファウツイア・ユーシフさん。タリバン政権崩壊後、アフガンの女性教育が復活した。それを荷う人たちだ。二人とも教育学教授。日本政府の支援もあって、日本の五つの女子大学が招いた。彼女達を一日家内が招待して二〇名程のパーティとなった。我家の女は三人共

皆日本女子大学卒で、高校時代の恩師六十六才神田先生もお見えになった。あんまり話しは出来なかつたけれど神田先生は素敵な物腰の女性であった。アフガニスタンの女性達には私も少し計りカルチャーショック。簡単には打解けようの無い人達だよね。そりゃそうだろう。アフガンの歴史は厳しい。カンボジア・プノンペンの小笠原さんも駆けつけて来て下さった。パーティ後、小笠原、安藤と宗柳へ。ネパールでお世話になった御礼。ナリーさん酒呑む手が大きく震えて、酒をこぼしてしまう。心配をはるかに通り越している状態だ。いい人は皆、精神が柔らか過ぎて、外の固さ、冷酷さに負けてしまうのだ。

二月十六日

朝八時前大学へ。入試の監督で今日は地獄だ。受験学生の欠席者が少なく、世相を反映しているな。無駄な受験が出来なくなっている位にそれぞれの家計が苦しいのだ。日本は本格的な氷河期に入らぞコレワ。早稲田建築は冷徹な戦略を組直さなければ衰退してしまう。入江正之先生に就職の現状を問えばゼネコン設計部組織事務所への就職希望がほとんど無く、あつてもどうも二番手三番手クラスの学生だけのようだ。一時期大手五社の設計本部長は全て早稲田卒で独占するような状態が続いていたが、どうもそれも危うい。一番手は皆海外へ流出するかプータロー状態を選択してしまふ。日本に希望が無いからだろう。かと言って建築家を輩出するような状態では無い事は歴然としている。何とか若い世代に希望が視える筋道を示さなければならぬ。優秀な人材が皆ドロップアウトしてしまう。しかもドロップアウトして生き抜けるような力はないのだから事は深刻である。その筋道はどうしても建築そのもので示さなければならぬのも理の当然だ。

二月十七日

八時二〇分地下へ。朝の光の中で考える。今週から沖縄へ定期的にいく。光嶋八時半出所。十四時入試空間表現採点。古谷先生の「大笑いする人を描き背景を紙を丸めたモノをデザインせよ」という出題は大ヒットだった。受験生が皆試験だと言うのに楽しんでいた。総合的に点も高かった。その後計画系でチヨツとした会議。意見を交換する。